

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。
- 1 「基礎学力の充実(土台作り)」 自ら学んで疑問を持ち、論理的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
 - 2 「勉強・部活動・行事をバランスよく」 安全で安心できる環境の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。
 - 3 「地域密着型の学校」 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。

2 中期的目標

新しい校舎を生かした組織的な教育活動を通して、高い自己肯定感に裏付けられた他者尊重の姿勢を持ちながら、主体的に考え行動する力を育てる。

- 1 感染症対策を継続しながら「主体的・対話的で深い学び」を実現する。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用を行い、興味・関心もてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業を通して、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
 - (1) 自ら学ぶ姿勢を育てる。そのために、指導と評価の年間計画(シラバス)を活用する。
 - (2) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価として、観点別学習状況の評価を推進する。
 - (3) 一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業形態の工夫を推進し、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答(H30 53.2%、R1 60.7%、R2 68.6%)を、令和5年度には75%にする。
 - (4) 生徒が一人一台端末を利用できる校内環境を整えるとともに、各教員が ICT 活用技術を向上させ学びの深化につながる効果的な授業作りを研究する。
- 2 確かな学力や高い志等をもてる学習支援・進路保障
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談やカウンセリングを行いながら、進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成する。大学との連携や外部資源の積極的な活用を行う。
 - (1) 生徒が目標を持った進路実現をめざし、進学実績等で達成感と目標に向かう力を育む。国公立大学、難関私立大学等希望進路の実現を図る(進路満足度 95%)
 - (2) 教科として進学講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の一環として青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定し、自学自習の助けとする(1、2年)。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答として令和5年度90%をめざす。(H30 83.4%、R1 84.2%、R2 87.7%)
 - (3) 外部テスト等の活用を行う。全国レベルの模擬試験を受検させ、結果を有効活用し、新しい大学入試制度に合う取組みを検討して進路指導に役立てる。
※生徒が自己を知り、学習方法を改善し、将来の進路を選択決定する能力を養う。
 - (4) S 講座(外部講師が本校で講習をする実力養成講習)を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
 - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科で実施する。
※成績不振による原級留置者0名を目標とする。
 - (6) 図書室、自習室の利用促進を図る。
- 3 豊かでたくましい人間性をはぐくむ。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
 - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、生徒相互にも気持ちを伝え合える環境づくりをめざす
あいさつ指導、遅刻指導、服装指導、ベル着指導(チャイムと同時に授業開始)をおこなう。
※積極的にあいさつを行う風土を醸成する。年間遅刻数(年間一人平均1.0回)以下を維持する。
 - (2) グローバル化・情報化が加速度的に進展する社会で通用する人材を育成するため、3年間のLHRや総合的な探究の時間、国際理解教育を推進しながら、SDGsの視点も踏まえた問題発見能力・解決能力や思考力・判断力・表現力を育成する。
 - (3) 健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育について、校内体制を整備するとともにきめ細かな運用を実施する。
※「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答率を令和5年度65%(H30 53.2%、R1 54.0%、R2 57.6%)をめざす。
 - (4) 人権尊重教育の推進やソーシャルスキルトレーニングを通して、自他の権利を尊重する態度をはぐくむ。
 - (5) 学校生活を快適に過ごせるよう、校舎の教室等の施設設備の充実と美化を図る。
 - (6) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
・学校行事、学年行事、部活動を活用し、特別活動を活性化する
・生徒委員会活動等を活性化する。
※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答について80%を維持する。(H30 69.2%、R1 82.3%、R2 82.7%)
- 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実
 - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等を公開する。地域及び地元幼小中学校、大学等との連携を進める。
 - (2) 本校の特色を活発に広報等する。
・ウェブページ、本校の学校紹介プレゼンテーション等を適宜更新するとともに、広報活動に力を入れる。
- 5 人材育成への取組
 - (1) GUTS(若手塾)の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
 - (2) 経験豊かな教員の知識等を活かした教職員研修を計画的に実施し、ミドルリーダーの育成を図る。
 - (3) 働き方改革の推進を行い、教職員同士の対話を深める時間や、生徒と向き合う時間を増やす。(超過勤務時間の減少)
- 6 個人情報等の適正な管理
 - (1) 全ての教職員が個人情報を取り扱う者としての責任を自覚し、個人情報管理ルールを徹底する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>1 「深い学び」の実践 新学習指導要領による、「主体的・対話的</p>	<p>(1) 自ら学ぶ姿勢を育てる (2) 資質・能力の育成多面的・多角的な学習評価として、観点別学習状況評価の推進 (3) 生徒の授業等への参加意欲の向上 (4) 一人一台端末への対応と教員の ICT 技術の向上、</p>	<p>(1) 年度初めに、科目毎に作成したシラバスを提示し、内容、評価の仕方等を理解させ、学習に生かす。 (2) 新学習指導要領の研究及び各教科科目の観点別学習状況評価の検討を行い、パフォーマンス課題の実施と評価の試行を行う。 (3) 授業形態の工夫や、ICT の効果的な活用で、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会を中心に、授業アンケート、授業観察シートを用いて授業改善活動を活性化させる。 (4) ICT を活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT(電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等)を活用した教材開発とその共有化を進め、授業で活用する。 ・教員同士での授業見学を活性化し、ICT の利用方法を含め、生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を促進する。</p>	<p>(1) 自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、55%以上をめざす。[55.3%] (2) 新学習指導要領によるカリキュラム編成を行い、シラバスに反映する。パフォーマンス課題を全教科で試行。授業評価に関する教職員研修1回実施。 (3) 授業アンケート平均3.3以上[3.3]、興味・関心、知識・技能の全体平均3.2以上[3.21]をめざす。授業観察シートの提出率95%。・教員相互の授業見学実施率95% [97%] (4) タブレットやグループウェアを活用した授業に関する教職員研修1回実施 ・テーマを定めた公開授業を2回以上行う</p>	
<p>2 確かな学力、高い志をもつ学習支援</p>	<p>生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談やカウンセリングを行いながら、進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成。大学との連携や外部資源の積極的な活用。 (1) 進学実績等で達成感を維持させる (2) 教科等での講習、自学自習の支援 (3) 外部テスト等の活用、学力向上と資格取得 (4) S 講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5) 成績不振者に対する指名補習の実施 (6) 図書室、自習室等の利用促進</p>	<p>(1) 進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を活用し、自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・生徒の正しい職業観を育成と社会で生きる力を養成するため、社会人講師による進路講演会を実施する。 (2) 年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏期講習を実施する。 (3) 外部テスト活用を推進することにより、資格取得と学力向上への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、生徒の進路意識を高め、結果を活用した組織的な指導を行う。 ・進路状況や外部テストの結果を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。 (4) S 講座は外部講師と協力して指導方針を策定し、効果を高める。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5) 指名補習を実施し、基礎的な力をつけさせ、単位の修得を図る。・単位修得に向けて週休日の家庭学習の定着を図る。成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6) 図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室・少人数学習スペースの利用促進を図る。</p>	<p>(1) 国公立大学・関関同立・産近甲龍の現役実合格者数80名以上[90名] ・社会人講師による進路講演会の実施(年間2回) ・進路情報への満足度88%(R2年度86.1% R1年度80.9%)・授業以外の学習時間1時間以上の生徒の維持増加[1年67.9%、2年60.4%、3年77.5%] (2) 「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答 87%[87.7%] 青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー)を年間6回設定する。 (3) 外部模試の全員受検と外部テストの活用。・外部テストの結果分析会の実施(年間2回) 英語検定受験者数200名[218名] (4) S講座受講者数100名以上 出席率85%以上 (5) 成績不振による原級留置者0人 (6) 授業・総合の時間等での図書室利用10回以上・生徒図書委員による図書館便りの発行5回・自習室利用者 15名/日[17名/日] 貸出冊数の増[貸出冊数1103冊]</p>	
<p>3 生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり。 自尊心の育成・自己肯定感の醸成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立、生徒相互が気持ちを伝え合える環境づくり (2) 社会で通用する人材を育成するため LHR や総合的な探究の時間の有効活用・国際理解教育の推進 (3) 健康を適切に管理し、改善するための資質や能力の育成 教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育充実 (4) 人権尊重教育の推進やソーシャルスキルトレーニングの実施 (5) 教室等の施設設備の充実と美化 (6) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。・生徒委員会活動等の活性化</p>	<p>(1) あいさつ、声掛けを行い、遅刻指導、服装指導、ベル着指導 ・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。 ・服装指導の高い評価を継続する取組み推進 (2) LHR や総合的な探究の時間で、志(こころざし)学やSDGs の視点を取り入れた探求学習に取組む。防災教育の取組み(避難訓練)、キャリア教育(進路ガイダンス)、健康教育(文化祭での発表等)を推進し生徒意識を高める。国際理解教育の一環として、校内語学研修やオンラインを使用した国際交流を実施し、その成果を共有化する。 (3) 健康診断を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。・高校生活支援カードの有効利用。必要に応じて関係機関や専門家との連携を図る。 (4) 3年間を通じた人権尊重の取組み(LHR)を行う。また養護教諭によるSST(ソーシャルスキルトレーニング)講座を実施し、自己を知り他者を尊重し、人権意識を高める (5) 定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の整備を行い、生徒主体による美化意識の向上と美化活動を充実し、美しい校舎を保つ。 (6) 学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に取組ませることで企画・運営力を育成し、達成感を持たせる。 ・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。 ・生徒会を中心として、生徒委員会活動を活性化させる。</p>	<p>(1) 年間遅刻数(年間一人平均1.0回以下)を維持[0.92回]。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。あいさつ強化週間の設置 (2) LHRや総合的な探究の時間での発表や制作を各学年1回以上行う。・キャリア教育としての大学連携ガイダンス実施 ・英語語学研修を1回実施。感染症対策としてオンラインを使用した国際交流も併用し、延べ参加者30名以上[15名参加]。 (3) 健康診断の結果から個別の保健指導を年3回行う。歯科の保健指導を年3回以上実施する。「担任に気軽に相談できる。担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率[57.6%]を上げる。 (4) 人権HRを各学年3回(3年生は2回)以上、教職員向け研修を年間1回以上実施。希望者向けのSST講座を学期ごとに行う。 (5) 校内の清掃状況。生徒保健委員会による美化活動の充実(年間3回)。 (6) 「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の維持[82.7%] ・新入生の部活動加入率85%以上の維持[84.6%]・生徒保健委員会による学校保健研究大会出場。生徒会執行部による目安箱からの意見採用1件以上・クラブ代表者会議を10回以上実施</p>	

府立吹田東高等学校

4 開かれた学校づくりと 広報活動等の充実	「広報部」を中心とした開かれた学校づくり (1) 学校行事等の公開、地域及び地元幼小中学校との連携 (2) 本校の特色を活発に広報等する。	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。 ・中学校と公開授業等の交流を行って教員の授業力を向上させ、生徒の授業理解度を高める。 ・大阪大学等との連携を継続する。 ・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (2) 「広報部」を中心に、広報渉外等を教員全体で運営していく ・ウェブページで情報を発信する。・部活動の紹介や行事の紹介などを通して在校生保護者への広報活動も充実させる。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションや学校紹介ビデオ等をさらに魅力あるようにバージョンアップする。 ・学校説明会等を通し、情報収集と広報を行う。	(1) 体育祭、文化祭等行事への地域からの参加人数の増加 ・地域教育協議会等への参加の継続。 ・クリーンキャンペーンの実施状況。(地域との連携評価) 地域からの評価 ・中学校公開授業への参加。 ・新規大学との連携 (2) ・「吹田東高校のWebページ(ホームページ)をよく見る」の回答[保護者37.4%、生徒13.3%]を引き上げる。(2) 中学校訪問、地域行事等での本校情報の発信を実施 ・ウェブページの組織的更新を行い、更新回数週2回以上を維持する。	
5 人材育成への 取り組み	(1) 経験の少ない教員の育成 (2) 経験豊かな教員の知識等を生かす教員研修の実施 (3) 働き方改革の推進	(1) 校内研修において、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。ミドルリーダー育成を図る。 (3) 校内組織等の見直しを行い、教員の働き方改革を進め、教職員同士の対話を深める時間や、生徒と向き合う時間を増やす。	(1) GUTS年間8回以上[8回] (2) ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。 (3) 超過勤務の平均時間減、長時間勤務者の減少を図る。[29.3時間、長時間勤務者39名]対話型の教職員研修の実施(年間2回)	
6 個人情報の 適正管理	(1) 個人情報の適正管理	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。 個人情報保護研修1回実施。	